

丹波市女性消防分団インタビュー

相手方：丹波市女性消防分団分団長 上田吉美（うえだ よしみ）氏

当 方：丹波県民局

（１）女性消防団の概要、入団のきっかけについて教えてください。

①発足はいつですか。

平成 16 年 11 月 1 日に丹波市消防団発足時に旧氷上町消防団女性消防分団が氷上支団所属で発足しました。

平成 20 年 12 月 10 日の組織改革により、氷上支団から本部所属の女性消防分団として市域全域を活動範囲として再結成しました。

②現在、何人が活動していますか。

11 人（令和 5 年 1 月 1 日時点）です。

③活動内容について教えてください

- ・ 消防本部に同行し、救命講習のサポート
- ・ 消防団主要行事への参加
- ・ 火災予防の啓発
 - ・ 毎月の広報車両での広報活動
 - ・ FM805 の番組出演
 - ・ 防災行政無線での火災予防声かえ
 - ・ ショッピングセンター等での該当啓発活動
- ・ 全国女性消防団員活性化大会や各種研修会へ参加
- ・ 小学校、自治会等での火災訓練の訓練指導

④いつ入団しましたか。

平成 25 年 4 月 1 日です。

⑤入団のきっかけは何ですか。

団員であった知人に誘われて入団しました。

⑥日頃の活動を通じ、女性が消防団として活動することについて、どのようなことを感じますか。

火災予防の呼びかけや救命講習の指導、小学校や地域の防災訓練指導や市の大きな訓練などでの参加など、火災時の消火活動には出動しませんが、女性消防団員として活躍できる機会が多いです。

ここ 2 年程、コロナ禍で活動が縮小していますが、全国大会での活動報告を聞くと、まだまだ取り組める事はあると感じています。

(2) 日ごろの備え、気をつけていることを教えてください。

消防団員の一人として、当然に火の用心には十分気を付けています。後は色々な活動に参加するために体力が第一ですので、健康づくりに定期的な運動をしているメンバーが多いです。

①入団後、防災への意識で変化したことはありますか。

団員になって以降、平成 26 年の市島の災害や平成 30 年の大雨では集落の近くが冠水したので、災害を身近に感じるようになりました。災害は忘れないうちにやってくるという意識しているようになりました。

②消防団として、地域の人に対し、どのようなことに気をつけて啓発活動をしていますか。

女性消防団に好感を持ってもらえるよう、街頭キャンペーンでは明るく笑顔で接することを意識しています。「女性消防があるんですね。」と女性の方から声をかけてもらおうと嬉しいです。新規入団してほしいな～と思っています。

③消防団へ入団したことで得た新たな気づき、人との関わりがありましたら、教えてください。

救命講習では消防署の方や、消防団の団長や副団長さん、防災訓練では丹波市防災会の方、そして市役所の消防、防災担当の職員の方と知り合いになり、お世話になっています。救急や火災、災害の第一線で活躍されている方のお話など、多くのことを教えてもらっています。

(3) 平成 26 年 8 月丹波市豪雨災害以降の防災意識・活動の変化について教えてください。

・平成 26 年 8 月丹波市豪雨災害は個人、地域の防災意識・備えに変化をもたらしましたか。

(個人)

普段からの災害の備えと災害時に何かの支援ができるようになりたいと思うようになりました。

(女性消防団)

平成 26 年の時は、市もバタバタされていて、女性消防分団としての支援活動ができませんでした。それ以降、何かあれば炊き出しなどができるように訓練の機会を通じて女性消防分団で炊出し訓練に取り組んでいます。(平成 29 年の県総合防災訓練でも実施し、県知事さんに食べていただきました。)

コロナ以降は取り組めていませんが、また再開できればと思います。